

再分布現象を呈したので報告する。[症例] 73 歳、男性。家人との口論後、突然冷汗を伴う左前胸部痛を自覚したため当科救急受診。心電図では I, aV_L, V₁₋₆ で ST 上昇、V₁₋₃ で QS pattern。心臓超音波検査では前壁中隔から心尖部にかけては akinesis であったが、エコー輝度の上昇や壁の菲薄化は認めなかった。発症約 1 時間後の緊急 CAG にて #7 の total occlusion を確認し、同部位に対して rescue PTCA を施行し、50% 狹窄にまで改善した。発症 12 時間後には max CPK 2,428 IU/l, 36 時間後には V₃ で r 波を認めるようになった。1か月後には再狭窄を認めず、局所壁運動異常は軽度であった。10日、2か月、5か月後に MIBI 心筋シンチグラフィを静注 1 時間後と 3 時間後に施行した。10日後に行った MIBI 心筋シンチグラフィでは、遅延像の集積低下が初期像よりさらに拡大した、いわゆる逆再分布現象が認められ、ほぼ同時期に行なった ²⁰¹Tl と近似の所見を呈した。2か月後、5か月後としだいに初期像の集積低下所見は軽減し、逆再分布現象の範囲は縮小したが、なお残存した。[参考] MIBI 心筋シンチグラムの逆再分布現象は、早期再灌流により salvage された心筋細胞の機能異常と関連することが推定された。

45. この 3 例は肥大型心筋症か？——¹²³I-BMIPP 心筋シンチグラム所見を中心に——

杉原 洋樹 牛嶋 陽 奥山 智緒
前田 知穂 (京府医大・放)
伊藤 一貴 松本 雄賀 寺田 幸治
谷口 洋子 中川 達哉 中川 雅夫
(同・二内)

[症例 1] 12 歳、女子。母方祖母が 33 歳時に心臓病で死亡、兄が 12 歳時ランニング中に突然死。心電図：II, III, aV_F で T 波陰転化、V₁ で R 波高値。断層心エコー図：中隔厚 8 mm、後壁厚 9 mm、心ブーラシンチグラム：駆出率 68%、左室拡張早期流入障害あり。心臓カテーテル検査：冠動脈正常、壁運動異常なし。心筋生検：心筋細胞肥大、錯綜配列、線維化があるが、いずれも軽度。²⁰¹Tl 心筋シンチグラム：正常範囲。¹²³I-BMIPP 心筋シンチグラム：前壁に欠損あり。“HCM without hypertrophy”と考えた。

[症例 2] 65 歳、男性。15 年來の高血圧症を有する。収縮期血圧が 200 mmHg 以上のこともたびたび

あったが、ここ数年は降圧薬治療にて 150–170/90–100 mmHg 程度である。心電図：巨大陰性 T 波を伴う左室肥大。断層心エコー図：中隔厚 2.1 cm、後壁厚 1.4 cm。冠動脈造影：正常。¹²³I-BMIPP 心筋シンチグラム：中隔と前壁および後壁の接合部を中心に欠損あり。“HCM with hypertension”と考えた。

[症例 3] 50 歳、男性。境界型高血圧症あり。心電図：T 波陰転化、左室高電位。断層心エコー図：中隔厚 1.1 cm、後壁厚 1.1 cm、心室中部の前壁側、中隔側、後壁側それぞれ 1.4 cm, 1.3 cm, 1.2 cm。冠動脈造影：正常。左室造影：壁運動異常なし。運動負荷 ²⁰¹Tl 心筋シンチグラム：心尖部の一過性集積低下。¹²³I-BMIPP 心筋シンチグラム：初期像は正常、遅延像は中隔と前壁および後壁の接合部で欠損あり。“HCM である可能性”を考えて経過観察中。

肥大型心筋症か否かの診断に苦慮する症例が存在する。¹²³I-BMIPP 心筋シンチグラムの集積低下様式は HCM の診断の一助となる。

46. 冠動脈疾患におけるジピリダモール負荷 ^{99m}Tc-tetrofosmin 心筋シンチグラフィの意義

足立 至 杉岡 靖 西垣 洋
松井 律夫 河合 武司 末吉 公三
植林 勇 田本 重美 大竹 義章
(大阪医大・放、一内、三内)

新しい ^{99m}Tc 心筋血流製剤である ^{99m}Tc-tetrofosmin を使用しジピリダモール負荷心筋シンチグラフィの可能性について検討した。対象は 1994 年 6 月から 12 月までに各種心疾患が疑われた 107 症例に 1 日法で検査を行い、得られた心筋 SPECT 像と心筋と肝臓との重なりについて画質評価を行い、そのうちの 55 症例は心血管造影所見と対比検討した。方法はジピリダモール負荷は 0.56 mg/kg を 4 分間かけて静注し、静注終了後 3 分後に ^{99m}Tc-tetrofosmin を静注し生理的食塩水 20 ml でフラッシュした。その後早期像としてシーメンス社製 ZLC-7500 型ガンマカメラで右前斜位 45° から左後斜位 45° の 180° 回転 32 方向から 1 方向 20 秒で SPECT データ収集を行い、Planar 像は 5 分間の収集で前面像のみを撮像した。早期像の ^{99m}Tc-tetrofosmin の投与量は 6 月から 7 月末までの 36 症例では 185 MBq、8 月から 12 月末までの 71 症例は 259 MBq を使用した。3 時間後安静時に ^{99m}Tc-tetrofosmin